

HIGHLIGHTS 2016

2016年度の
主要トピックスを
ラインナップ

2016.8

ナイロビでTICAD VI開催

アフリカのオーナーシップと国際連携強化を目指す「ナイロビ宣言」採択

第6回アフリカ開発会議(TICAD VI)が初めてアフリカで開催されました。TICAD VIで採択されたナイロビ宣言は「経済の多角化・産業化を通じた経済構造改革の促進」「質の高い生活のための強靱な保健システム促進」「繁栄の共有のための社会安定化促進」の3つを、優先分野の柱に掲げました。JICAは、アフリカ諸国や国内外のパートナーと共に、TICADの公約に沿った支援を進めていきます。

フィリピン・マニラで行われた授与式には、JICA北岡理事長のほか、元協力隊員の代表も出席した

青年海外協力隊が ラモン・マグサイサイ賞を受賞 50余年にわたるアジア地域への貢献に対して

2016.8

青年海外協力隊がアジアのノーベル平和賞とも呼ばれる「ラモン・マグサイサイ賞」を受賞。これはアジア地域で社会貢献などに傑出した功績を上げた個人や団体に贈られる賞です。2015年に発足50周年を迎えた青年海外協力隊の「現地の人々と共に生活し、共に働く」という理念に基づくこれまでのアジア地域への貢献が認められ、今回の受賞となりました。青年海外協力隊は、アジア地域に延べ1万2,403人が派遣されてきました(2017年3月末現在)。



2016.10

日本発! 母子手帳 グローバルスタンダードを目指して

第10回母子手帳国際会議

2016.11

2016年11月に第10回母子手帳国際会議が東京で開催され、38の国と地域から約400名が参加しました。JICAも共催したこの会議は、日本の母子手帳の歩み、各国の事例紹介を通じて貴重な学び合いの場となり、最終日には「誰一人取り残さない」世界を実現するために母子健康手帳を国際標準手法として推進することが「東京宣言」として採択されました。JICAはこれまでに25カ国以上で母子手帳の導入を支援しています。



パレスチナ：母子手帳の支援を行う専門家【写真：今村健志朗】



JICA開催のハイレベルパネル
「Africa, toward 2063 and beyond」

【→ P.46 「アフリカ」、P.59、67、75事例】

2016.8-9

オリンピック・パラリンピックへの夢

JICAボランティアによるスポーツ支援

リオデジャネイロ オリンピック・パラリンピックでは、柔道と陸上競技の2種目で6カ国からJICAボランティアの教え子が出場(サモア、パラグアイ、チリ、モンゴル、ラオス、ソロモン)。夢の大舞台を目指し世界各国で練習に励む選手たちを、青年海外協力隊員やシニア海外ボランティアが力強くサポートしてきました。技術だけでなく、礼儀や他者への思いやり、あきらめない心を伝えるその指導により、心・技・体ともに成長した選手たちの活躍が、自国への誇りと他国への理解促進につながります。



サモア柔道チームの監督も務めた協力隊員とデレク・スア選手

国際緊急援助隊医療チームがWHOの国際認証を取得

世界で4番目の登録団体となる



国際緊急援助隊(JDR)医療チームは、世界保健機関(WHO)から緊急医療チーム(Emergency Medical Team: EMT)として国際認証を受けました。災害時に派遣されるEMTの質の確保を図るために、WHOが2015年から導入した登録制度に合格したものです。安定した質の高い医療サービスの提供や、WHOが主導する国際的な取り組みに対する日本の貢献に大きな期待が寄せられています。

JDR医療チームによる手術の様子(ネパール)

2016.10

テロ対策が重点 新たな安全対策研修・訓練を開始

現場での危機に備えて

JICAは、外務省と設置した「国際協力事業安全対策会議」の報告を踏まえ、2016年10月、開発協力を携わる民間企業、地方自治体、大学、NGOなどの関係者を対象とした安全対策研修・訓練(座学、実技、ウェブ研修)を開始しました。2016年度は17回の座学・実技研修に計1,600名を超える関係者が参加し、海外で遭遇し得る脅威や対策例のほか、さまざまなシナリオを「体験」しながら、実践的な対応方法について学びました。



テロに遭遇したときの対応を学ぶ参加者

【→ P.119 「安全管理」】